

(様式2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名		県営農道整備事業		路河川名等				
事業毎の通番		2	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	安曇野(あずみの)		
事業概要	事業目的	本地区は、昭和45年度～56年度に整備された広域農道であり、農業輸送に利用されるとともに、地域の生活道路としても広く利用されており交通量が増加している。そのため、路面の損傷が激しく農作物輸送等に支障をきたすとともに、歩道が設置されていない区間においては、歩行者に対し非常に危険な状況である。また、橋梁においても交通量の増加に伴ない損傷がみられる。このため、本事業により歩道の設置と路面の整備、橋梁の補修を実施し、通行する歩行者、自転車及び農業車両の安全を確保すると共に農道としての機能回復を図る。						
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	1-3 夢に挑戦する農業 (自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産) 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり (暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	土地改良法			
	関連する事業、計画等	第2期長野県食と農業振興計画、安曇野市農業農村振興計画						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益面積: 5,014ha						
	着手年度	平成27年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	7.0	国庫	140,000	70,000	63,000
	全体事業内容(主な工種)	路面改良 L=420m 歩道設置 L=790m 橋梁補修 N=2箇所			280,000	140,000	70,000	63,000
	年度事業内容(主な工種)	測量設計 1 式			35,000	17,500	8,750	7,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	当農に係る走行経費節減、一般交通等経費節減、生活環境改善効果、維持管理費節減					
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	〇日交通量 17,600台/日			評価	A		
		〇受益農地面積 5,014ha						
	重要性	〇関連計画、重要施策: 第2期長野県食と農業振興計画、安曇野市農業農村振興計画 第7次土地改良長期計画			評価	B		
		〇費用対効果: B/C=7.04 〇事業期間: 5年 〇路上再生路盤工法採用			評価	A		
	緊急性	〇道路構造(現況の歩道): 歩道なし 〇農業経営上の支障: 輸送時間短縮			評価	B		
		〇事業情報の共有: 関係者を中心に周知(H25.12.10説明会実施) 〇地域の取り組み: 強い要望あり 〇地域の合意形成: 合意形成が図られている。 〇住民との協働: 草刈など			評価	A		
部意見	建設後30～40年経過し、路面・橋梁等の損傷が著しく必要性が高い。また歩道の無い道路であり、安全性に関し、地元意識も高く計画熟度が高く、整備が必要である。	行政改革課意見	本路線は、生活道路としても利用され交通量も多い。児童の安全を確保することから、必要性が認められる。	評価結果	〇	総合評価	A	

地区概要

路面状況(たわみ)

橋梁状況 遊離石灰化

橋梁状況 地覆ひび割れ

路面改良 L=420m
歩道設置 L=250m
歩道設置 L=540m

歩道幅員 B=2,000
幅員 B=7,000
路面改良 B=6,600

表層工: 再生粗粒度As13 t=3cm
路盤工: RC-40 t=10cm
床土層: RC-40 t=15cm

表層工: 改良II型密粒度As20 F t=5cm
路盤工: 再生粗粒度As20 t=5cm
路上再生路盤工: 砂分・7377t改良 t=17cm

歩道境界2.0mB12 両面R
L型橋壁 H=1,400

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景

昭和45年～56年にかけて広域農道として建設された全幅7.5m全延長14kmの安曇野広域農道であるが、周辺の環境変化に伴って現在では交通量の増加、歩行者の増加等、利用頻度が非常に高くなった。そのため、路面の傷みや歩道が無い道路のため、管理所管毎に路面改良や歩道設置などの事業化が行われ改修が進められてきている。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり

周辺の路面改良や歩道の設置が進められてきており、本計画路線でも早く改修を行ってほしいとの強い要望が出ている。

③事業説明等の経緯

平成25年12月10日に、地元区及び地権者を集め、事業説明会を開催し計画を説明している。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連

特になし

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮

低騒音、低排出ガス重機を使用し、地域環境の影響を最小化する。

⑥地域活性化への影響と配慮

本事業により交通の円滑化や歩行者の安全性が図れ、都市からの来訪者による交流が期待される。

⑦その他

事業代表地点の緯度経度

北緯: N 36° 26' 37.8"

東経: E 137° 52' 40.5"